



Colors, Future!
いろいろって、未来。

川崎市

子どもの笑顔が
あふれるまち
かわさき



令和7年度かわさき教師塾

☆『明日の先生日記』☆

『明日、子どもたちの笑顔の前に立っている私』をイメージする学び

1月17日(土) 川崎市の特別支援教育及び外国につながる子どもたちの理解や支援に関する講義、事例を通して子どもの見方や具体的手立てに関するグループ協議・交流が行われました。

令和8年1月17日(土) 日程

- 10:05 特別支援教育
- 11:05 日本語指導が必要な子どもたちの教育
- 12:00 ~昼食・休憩~
- 12:30~12:50 「教員採用試験個別相談会」
- 13:00 個に応じた支援(グループ協議)
- 全体指導助言
- 14:45 振り返り・事務連絡 15:00 終了



失敗しても大丈夫!
間違いから学ぶ!



子どもの実態把握をする

いろいろな角度・視点から考える

得意なこと	学習スタイル
認知処理スタイル	
苦手なこと	運動機能面
生活面	感覚面



その子に合う支援をすることは特別なことではなく当たり前なことであり、教師として一人ひとりの子どもに関わる意味を再認識できた。

教師として、言葉かけや接し方を工夫しモデルになることで、子ども同士が助け合える雰囲気作りをしたい。



ユニバーサルデザイン(人的環境)

安心して学ぶことができる場を作りましょう

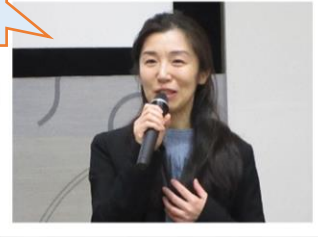
- 先生の言葉かけ
 - ・できていること、適切な行動を伝える。
 - ・肯定的な言葉かけをする。
 - ・叱るのではなく、繰り返し伝える。

先生が子どもたちのモデルになるように...



「つなげる」「ひろげる」

日本語が話せずケンカになってしまう子がいました。気持ちを伝えづらい言葉の壁があったのだと思いました。今は話せるようになり友だちと楽しくしています。



言葉に自信がなくても、失敗しても、話してみようと思える学級の雰囲気大切。

十人十色、人により理解しやすい学習方法が違うことを知った。様々な方法を工夫・活用し、固定しない授業を目指していきたい。

日本語指導が必要な子ども達が言語の壁によって将来の幅が狭くなっていると知り、教員として支援できることを考えていきたい。

どんなことを大切にしたいですか
日本語指導が必要な子どもの教育

- ・あたたかなクラスづくり
- ・子どもの背景を知って理解する
- ・母語や違い、多様性を大切に
- ・わかりやすい授業づくり・母語の活用
- ・子どもが自信をもつ活動の工夫
- ・クラスの子も成長のチャンス～多文化共生教育
- ・連携・強みを生かす・自己実現

「困った子」ではなく「困っている子」として寄り添い、本人の困り感を解消するように最善の方法を探すことが教師の役割だと感じた。



グループ活動では、他の班の考え方や見方と交流することで、自分の班と全く違うにも関わらずとても納得できる学びになった。



子どもの背景を知るためには、その子との信頼関係やコミュニケーション、情報共有が大事であり、一人ひとりに寄り添った教師を目指したい。

「冰山モデル」という言葉が特に印象に残った。見えていない部分を考えたり目を向けたりすることが大事だと分かりました。



違いを認め、その子に必要な支援をすることが求められている。

支援の手立て

聞く・話す、読む・書く、計算する、推論する

- ・補助具等の活用(プリント・ICT機器・ルビ振り・スケール)
- ・課題の到達点の調整
- ・人と違ってもよいという環境作り



いちばん困っているのはだれだろう?



2泊3日の自然教室で子どもたちが楽しく安全に過ごせるよう、運営スタッフ(指導補助員)を募集しています。(謝礼金あり)

昼食後に「教員採用試験個別相談会」が行われ、今回も和やかな雰囲気の中にも真剣な質疑応答がありました。2月14日(土)が最終回となります。聞き逃したことがある方、気になることがない方も、ぜひ足をお運びください。

